

■令和3年度計画における評価一覧

令和4年8月1日  
横浜市公立大学法人評価委員会  
資料 2

評価基準 S: 年度計画を上回って達成している。または達成の難易度が高い計画を順調に達成している  
A: 年度計画を順調に達成している  
B: 年度計画を十分には達成できていない  
C: 年度計画をほとんど達成していない

評価項目	法人自己評価	委員会(案)	評価	コメント
I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための取組	A	A	S	コロナ禍など大学を取り巻く厳しい情勢にも拘わらず、むしろそれをバネにした教育研究の充実と着実な遂行に努力し、高く評価されるべき成果を挙げていると認められる。
			A	大学機関別認証評価にて評価基準を満たしていると評価された。新型コロナウイルス感染症における保健指導と同時にオンラインの講義を積極的に実践するなど、時宜を逸することなく十分な対策を行い教育と研究の目的を達成した。
			A	複雑化する社会に対応できる人材の育成を目的として、学部生、大学院生、そして社会人に対して、今後をみすえた教育および研究体制の整備が着実に進んでいる。データサイエンス教育も当該学部だけでなく、全学的な教育体制を整えつつあり、評価できる。
			A	全体として年度目標・中期目標を着実にクリアしてきている。
			A	
1 教育に関する取組	A	A	S	全学的なデータサイエンス教育、PBL・AL、文理融合・実課題解決型学修、大学院科目早期履修制度導入など、教育内容・方法の改善充実のほか、学生支援の強化等にも努め、学生満足度、FD・SD研修受講率、AL導入率などの指標が目標を大きく超える結果となり、優れた成果と評価できる。
			A	データサイエンス学部の充実に伴って斯界に関する教育が全学的な広がりをもって発展していることが理解できる。このことは学内に限られず、横浜市や市民(社会人)へと展開して高く評価できる。
			A	令和3年度計画にのっとり学部生、大学院生に対する丁寧な教育プログラムと教育支援が実施されている。コロナ禍における学生支援の取り組み、さらにコロナ禍終息後に向けて、オンライン授業と対面授業の割合、その他の実施施策についても、議論を進めている。
			A	全学横断的な「高等教育推進センター」設立など着実に教育の改革が進められている。スタートアップ企業との共同研究を実施し産学連携拠点機能の強化が図られた。
			A	
1(1) 全学的な取組				キャリア支援について、コロナ等の影響により業種によっては従来より大きく採用人数減らす企業も見られたため、当初の希望通りの就職活動ができなかった学生も少なからずいたと思うが、就職率を大きく下げず維持できたことはサポート体制の賜物と推測し、高く評価したい。
1(2) 学部教育に関する取組				全学的なデータサイエンス教育について、予定通りに進み、コロナ禍でのインターンシップ(オンラインを含む)の体制も整えた。また Learning Management System 高等教育推進センターの設置も進んでいる。
1(3) 大学院教育に関する取組				ADEPTプログラム(領域横断型プログラム)の新設は重要、成果が期待できる。
1(4) 学生支援に関する取組				企業や社会を取り巻く環境の変化スピードが上がり、就労年数も長くなる中、多くの社会人にとってキャリア中期での学び直しは多くの意義がある。今後も社会人向けの学びの機会のさらなる充実を期待したい。
				博士課程進学希望者に対する支援は特に重要な課題である。彼らへの生活支援も大事ではあるが、「科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設事業」によるキャリアパス支援をより充実してほしい。
1(4) 学生支援に関する取組				YCU給付型奨学金(2年目)やボランティア支援室設置による生活の苦しい学生の支援を実施。
2 研究の推進に関する取組	A	A	S	研究支援体制の充実を図りつつ、新型コロナ関連の優れた研究成果の公表など、着実に研究力を強化していることが窺え、論文数、科研費採択率、共同受託研究数などの指標が目標を大きく超える結果となり、顕著な成果を挙げていると評価できる。
			A	新型コロナウイルス感染症に関する研究において顕著な業績を挙げた。大学発ベンチャーの創出支援においても国立研究開発法人による採択によって創業前の研究者支援ファンドを得た。今後の社会実装が期待される。
			A	若手研究者に対するURA人材や学部専門機関との連携、パイアウト制度の運用開始などの研究支援施策の効果によって、出版論文数や科研費採択率が着実に上がっている。大学発ベンチャー創出支援も実際に3名の創業支援を行うなど成果を挙げている。支援センター病院からの先進医療申請件数が0となったのは残念だが、今後に向けて努力してほしい。
			A	コロナ抗体保有率の調査研究が大きく取り上げられ、市大医学部のプレゼンスが向上した。
			A	
2(1) 研究の推進に関する取組				
2(2) 研究実施体制等の整備に関する取組				
II 地域貢献に関する取組	A	A	A	地域志向科目の開講、地域実践研究の開始、市行政との協力による種々の取組、市民等も対象に含めた新型コロナワクチンの職域接種など、地域に貢献する各種活動を積極的に遂行したと認められる。特にボランティア派遣数や市との連携取組件数の指標は目標を大きく上回っている。
			A	教員地域貢献活動支援事業において「子育てを街づくりに」と捉える活動が高い評価を得た。また、両附属病院が薬剤部門独自のプログラム下にレジデントとして薬剤師国家試験合格者に教育の機会を提供した。この事業は地域貢献としてのみならず、言わば臨床研修薬剤師としてのキャリアパスを試みるものとしても意義深い。
			S	従来のエクステンション講座だけでなく、大学の授業8講座を市民に開放した事は、公立大学として評価される。さらに、地域志向科目を全学生必修としたためか、ボランティア活動も本年当初の計画より進んでいる。地域貢献コーディネーターの活動の認知度も上がり、教員地域貢献活動支援事業として開始した「地域実践研究」の研究助成も活かされ、賞を受賞した事など高く評価できる。
			S	地域実践研究の促進、地域社会との連携が図られている。
			A	学びの場としてだけのキャンパスではなく、学生のうちから様々なボランティア活動や地域活動に参加する機会があるのは、社会の一員としての自覚や自立を促すうえでも大変有意義な機会と考える。

評価項目	法人 自己評価	委員会 (案)	評価	
			評価	コメント
Ⅲ 国際化に関する取組	A	A	A	コロナ禍で海外との往来が不自由な中にありながら、オンラインなどの工夫をしながら、懸命に努力したことが窺える。
			A	新型コロナウイルス感染症の下でオンラインを活用した諸活動が実践された。また、実際に海外渡航を行った学生らについて渡航先の関係機関と周到な準備を施して有意な経験を積むことを支援した。このことも高く評価したい。
			A	協定校の獲得数や海外派遣学生の数など当初の予定を達成していないが、コロナ禍の中にあつて国際化を進める努力とその成果は十分に評価できる。協定校も着実に増えているが、未だ83校に留まっており、目標の100校をめざして努力してほしい。
			A	留学生支援、オンラインプログラムの充実等が図られている。
			A	渡航プログラムにはまだ多くの配慮がともなう状況下で、オンラインも活用した国際交流の機会を創出されたことは高く評価する。ぜひ今後も多様な国際交流の機会の継続を期待したい。
Ⅳ 附属2病院(附属病院及び附属市民総合医療センター)に関する目標を達成するための取組	A	A	S	最新機器の導入や病院間・院内の連携の強化、病院スタッフの資質向上、患者目線での各種サービスの向上などに取り組み、各般の診療業務を適切に遂行したことは高く評価できる。また、コロナ禍で病院経営には困難な状況にありながら、2病院とも黒字決算となったことは特筆に値する。
			A	以下のⅣ1～5の各項目において十分な水準として評価できたので、それらを総合して両病院の目標達成の取り組みについてAと評価する。
			A	横浜市と共に歩み、教育・研究・医療分野をリードし社会の発展に寄与するというYCUミッションを果たすべく、附属2病院がそれぞれの目標に向かって、真摯に取り組んでいる。特に市内唯一の高度救命救急センターとしての使命を十分に果たした。
			S	コロナ対応、地域医療への献身的取組を評価する。
			A	医療人材の育成支援や医療従事者のライフイベントとの両立支援の施策は高く評価したい。他方、人材の定着率は業務に対するモチベーションとの相関性が高く、すべての職位にとつてさらに働きやすい職場環境の構築を期待したい。
1 医療分野・医療提供等に関する取組	A	A	S	
			A	各附属病院に手術支援ロボットを2台ずつ配置するなど、特定機能病医院として高い水準の医療がなされ、癌ゲノム診療も対象を漸次拡大している。三次救急医療とコロナ禍での高度医療とを両立させ夫々充分に対応した。
			A	がん医療や救急医療、新型コロナへの対応などについては当初の計画より進んでおり、評価できる。しかし、外来初診患者数や、在院日数適正化、先端医療の推進などについては、数値目標にわずかに届かないものが多くある。
			S	コロナへの対応、新型コロナ専門病院への尽力、市のワクチン接種支援が評価される。
			A	
2 医療人材の育成等に関する取組	A	A	A	
			A	大学病院としての医療人材の育成は順調と評価する。これに加えて、医師の事務負担軽減や看護師の業務負担の軽減などを目的に多職種の教育に熱心に当った。病院経営に資する人材育成にも多くの職員が参加した。
			A	医師から看護師、コメディカルスタッフ、事務職員まで、それぞれに合わせた取り組みが行われている。夜間保育の受け入れ対象の拡大など、労働環境の向上については取り組みの結果がどうだったか、記載がほしい。
			A	
			A	指導医のための講習会・研修会のオンライン開催は参加者の物理的制約を取り払うだけでなく、多忙な医療従事者にとって非常に有意義なものと推測する。オンライン開催で遜色がないのであればぜひ継続を期待したい。
3 地域医療に関する取組	A	A	S	
			A	両病院にて多数の後方病院に一斉に情報を発信する転院調整支援システムが稼働し成果を得た。訪問看護ステーションなどとも密な連携があり、本法の発展が期待される。COVID-19に関連して高齢者施設などを支援した。
			A	クラウドサービスを活用した転院調整支援システムの導入は、業務の効率化・標準化に大いに役立っている。地域の医療従事者に対する研修、病院実習生の受け入れ、市民向け医療講座のオンデマンド配信、新型コロナ感染症についてのWebサイトを使って広報を強化するなど、評価できる。数値目標もほぼ達成している。
			S	
			A	
4 先進的医療・研究に関する取組	A	A	A	
			A	附属2病院について臨床研究中核病院の要件を満たすべく各種セミナーを系統別に体系付けたり、人的資源を投入したりするなどした。これらを経て、年度末に厚生労働省に申請を行った。
			A	Y-NEXTに戦略相談室を設置し、研究推進部との連携を強化した事等、評価できる。附属2病院と医学部の連携強化と役割分担の明確化、としてトランスレーショナルリサーチの推進で研究計画立案支援を行っているが、その実績を知りたい。
			A	ロボットアーム、ダ・ヴィンチの導入等、高度医療に取り組んだ。
			A	

評価項目	法人自己評価	委員会(案)	評価	
			評価	コメント
5 医療安全・病院経営に関する取組	A	A	A	
			A	倫理コンサルテーションチームの活動が両病院計96件は特筆すべきである。また入院患者へのPFMの実践、社会的な支援を擁する患者への外来対応も優れている。対COVID-19における職員への安全管理も高く評価できる。
			A	患者本位の医療をめざし、患者草案体制の整備や、待ち時間の改善などを着実にいった。患者満足度の低下の要因についても理解できる。2病院間の情報インフラの共有化も進み、電子カルテデータの有効活用にも努めている。経営面では、人件費比率も予定通りに進んでおり、経営戦略会議も機能している。
			A	
			A	
V 法人の経営に関する目標を達成するための取組	A	A	S	業務運営及び財務内容の改善については、以下に述べるように、優れた努力が認められる。
			A	V1及び2について十分な水準にある。(理由は各項目を参照)
			A	キャンパスマスタープランの策定や、医学部・病院等の再整備のビジョンの作成を行うための領域検討委員会を設けて検討を始めている。また、法人としてファンドレイザーを用いて寄付活動を行い、目標額を上回る寄付を得た事は高く評価できる。
			A	着実に改善もなされ、順調に推移している。
			A	
1 業務運営の改善に関する取組	A	A	A	理事長・学長や管理職が積極的にコンプライアンスの推進やガバナンスの強化に努めるとともに、働き方改革、人材育成等にも積極的に取り組んだと評価できる。
			A	メール誤送信(令和元年度、臨床研究)事案を風化させない努力を続けている。教職員の働き方改革に向けて出退勤管理システム、テレワークの本格稼働などICTインフラ整備・DX化・ネットワーク化に積極的に取り組んでいる。
			A	各項目について様々な取り組みがなされている。出退勤管理システムの導入が進んで居るが、大学教員についてはどうなっているのか、記載がほしい。高連携も進んでいるようだが、進学ブランド調査の知名度(40.7%)と大学ブランドイメージ(32)は令和3年度の目標値からは大分離れている。目標が高すぎるのか、広報活動が足りないのか?
			A	メールカリキュラム導入等、継続的に対応棚されている。テレワーク、時差勤務の定着、ダイバーシティへの取組が評価できる。医学部・附属2病院等の再整備検討を前向きに実施している。
			A	
1㉑ コンプライアンス推進及びガバナンス機能強化等運営の改善に関する取組				各種ハラスメントに対する意識の徹底・研修はあらゆる職位にとって必須となってきた。e-ラーニングであれば、受講率100%を目指したほうがよいのでは。
				内部通報窓口、研究費等内部監査、SDGs通信、大地震対応マニュアル作成、参集訓練、消防訓練等が適切に行われている。経営方針会議による内部統制システム規程検案も作成。
1㉒ 人材育成・人事制度に関する取組				クロスアポイント制を用いた他大への出校等についての記載が無い。YCU人材育成PLAN、人事考課に関する研修動画作成、医師の働き方改革のための出退勤管理システムの改修の検討など重要な取り組みと考える。女性管理職の割合は3割で良しとするのか?
1㉓ 大学の発展に向けた基盤整備に関する取組				長寿命化計画に基づく改修工事計画など、大学創立100周年に向けたキャンパスマスタープランを策定、職員のICTスキルアップ研修の受講生も多い。医学部の将来構想についても検討委員会が立ち上がっている。建学100周年に向けた準備も進んでいる。
1㉔ 情報の発信に関する取組				18歳人口の減少が進む中、受験生は志望大学を知名度や偏差値だけで選ぶ時代ではなく、入学したらどんなことができるのか、イメージを持ちやすくするために動画やSNSも含め多様でさらなる充実した情報発信を期待したい。
				進学ブランド調査、大学ブランドイメージのアップが未だ、指標を達成できていない。何が足りないか、検討すべき。あるいは指標が高すぎるのではないか?
2 財務内容の改善に関する取組	A	A	S	もとより大学は収益事業体ではないものの、関係者の工夫と努力により、大学部門、2病院部門の全セグメントにおいて黒字決算となったことは大いに評価されるべきものとする。
			A	大学では寄付金、効率化などにより当期総利益3.3億円、附属病院はコロナ関連の特定入院料などにて当期同14.7億円、センター病院においても同じように当期同10.8億円であり、法人全体として当期同は28.8億円となった。
			A	ファンドレイザーを中心とした渉外活動の成果も上がり、新たな寄付メニューも作り、寄付事業も進んでいる。ペーパーレス化に向けた取り組みも着実に進められ、経営の効率化が進むと考えられる。
			S	コロナ禍の中、全セグメント黒字化は大きく評価できる。ファンドレイザー活動により、寄附額は目標をクリアしている。
			A	
2㉑ 運営交付金・貸付金に関する取組				
2㉒ 自己収入の拡充に関する取組				
2㉓ 経営の効率化に関する取組				
VI 自己点検及び評価に関する目標を達成するための取組	A	A	A	自己点検・評価を誠実に、機関別評価を受審した結果、適合判定を得ており、適切な対応に努めたと評価できる。
			A	日本医療機能評価機構と大学機関別認証評価を受審し、各々について改善を要するとされた点について質向上への検討を行って実績をあげつつある。このようにして自己点検と評価に関する目標達成の取り組みを順調に遂行している。
			A	大学機関別認証評価を受診し、大学評価基準を満たしていると認定された。特にデータサイエンス教育の学内外への提供は大いに評価された。第4期中期計画の検討にむけた課題の洗い出しを行い、策定準備が着々と進んでいる。
			A	
			A	

評価項目	法人 自己評価	委員会 (案)	コメント	
			評価	
<b>○ 総合的な評価コメント</b>				
				<p>大学を取り巻く内外の諸情勢が多難な中であって、教育・研究・診療・その他の全般に亘って、優れた取組をしてきたと認められる。また、大学・病院を通じて黒字決算という結果を見たことは特筆に値する。なお、この結果を下に、市からの投入資金の削減など関係者の士気を殺ぐことなどないように強く願っている。市民が誇れる大学として、横浜市大が一層輝けるよう発展するためには、大学関係者の意識の高揚とともに、持続的な公費支援の充実が必要とされていると考えるからである。</p>
				<p>COVID-19並びにその疑い症例への診療と、従来からの救急診療とを両立させることは以下の理由で極めて困難となった。まずは、救急診療を担当するスタッフが嚴重な感染対策のために隣の診察室（同時に他の患者を診療する）に行けないなど、複数の患者を同時に診ることができなくなった。また、患者がコロナウィルスに感染しているか否かの検査をした場合には、結果が出るまで個室での対応となり、個室が満杯になれば救急患者の受け入れそのものを停止せざるを得ない。そして、救急部門のスタッフであれ、病棟スタッフであれ、コロナウィルスの感染者または濃厚接触者となれば、診療から離れねばならず、つまりはマンパワー不足となる。横浜市全体がこのような事情で苦しい中、ECMOや人工呼吸器を必要とする重症患者を診療しながら地域医療を支えてきた附属2病院の奮闘は特筆すべきである。最前線において対応して来た、士気の高い医療者に感謝と敬意を表すところである。病院機能は端的にこのようであるが、大学全体としても左記のように「A評価」であったことはCOVID-19の蔓延に十分に耐えて責務を全うしたと評価することができる。</p>
				<p>YUCミッション並びに取り組みの基本方針である「横浜から世界へ羽ばたく人材育成と知の創生・発信」そして「学生・市民・社会に対して本学が有する知的・医療資源の還元」に従って、様々なきめ細かい対応がなされており、全体として着実に成果が上がっていると言える。特に、本学の特色ある教育研究となったデータサイエンス学部、研究科の発展はもとより、全学的にデータサイエンス・リテラシー教育を広げた事は大いに評価される。また医療資源の市民への還元も、様々な取り組みによって確実に進んでいる。これらを可能にした教職員の皆様の努力に敬意を表す。</p> <p>ただ、数値目標が上がっている場合は、到達度が評価しやすいが、これに対して、様々な新しい施策や取り組み、新しい組織や仕組みを立ち上げた、という場合、それぞれについて効果測定をどのように行うのか、今後の課題となる。</p>
				<p>コロナ対応という厳しい環境の中、計画はほぼすべてクリアされており、大いに評価したい。経営と教育、地域への様々な貢献がバランスよく継続しており安定感を感じる。理事長、学長のガバナンスが上手に機能していることとともに、教職員の使命感、一体感を強く感じ、コロナ禍の中ではあるが、安心して信頼できる状況である。</p>
				<p>R3年度も新型コロナウイルス感染症対策でさまざまな制約がある中、学生サポートや地域医療への貢献にさまざまな施策を進められたことを高く評価する。少子高齢化が進む中、医療・教育・地域貢献といった分野で市大が果たせる役割・領域は広がっており、経営の効率化とともに様々な取り組みに挑戦されることを期待している。</p>